

# モンゴル恐竜研究報告

2017  
3/13 山陽  
岡山県版

岡山理科大  
シオンポ  
巨大足跡化石など

モンゴルでの恐竜研究が文部科学省の「私立大研究ブランディング事業」に選ばれた

岡山理科大（岡山市北区理大町）で12日、シ

ンポジウム「恐竜時代のモンゴルと地球環境」があり、研究チームの調査報告などに約150人が聞き入った。

同大は林原（同下石井）の恐竜研究事業を引き継ぎ、2014年に全国初の「恐竜・古生物学コース」を開設。モンゴル古生物学地質学研究所とゴビ砂漠での共同調査を行い、昨年は1層を超える世界最大級の足跡化石を発

見した。

研究代表の石垣忍教授は、巨大足跡化石を「全長30層のティタノ

サウルス類」と分析。同研究所のブーヴェイ・マインバヤル研究員は「これほど大型の恐



モンゴルでの恐竜研究について理解を深めたシンポジウム

竜はモンゴルで出土しておらず、調査の余地は大きい」とした。

モンゴルと北米で恐竜を研究する小林快次北海道大総合博物館准教授の講演もあり、「ゴビ砂漠は、恐竜の多様性や大陸間移動の解明が期待できる重要なフィールド」と話した。

同事業は私立大の特色ある研究を国が支援。同大は20年度までの5年計画で、化石の新たな年代測定法の開発を進めるほか、来年度中に学内に「恐竜学博物館」を開設、恐竜研究の国際的な拠点を目指す。（稲垣心也）